

収蔵庫から選んだ資料展



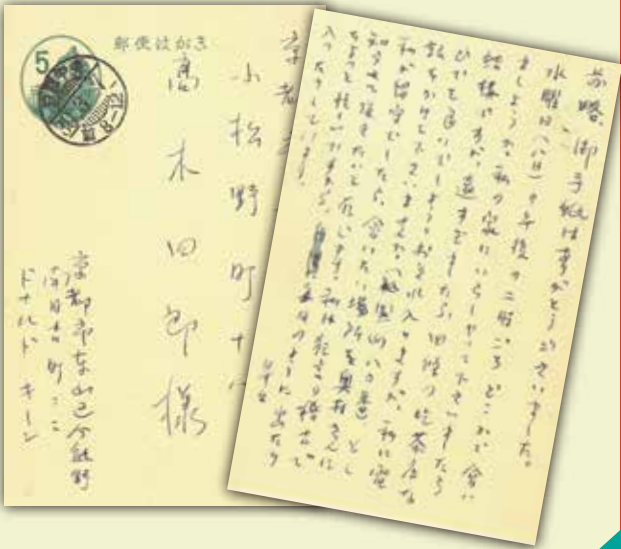
▼ひらかな盛衰記 傾城梅ヶ枝

ドナルド・キーンが画家高木四郎に宛てた一通の書簡から生まれた文楽人形スケッチ画。

▼傾城梅ヶ枝

高木四郎 文楽人形スケッチ画展

ドナルド・キーン京都留学時代の知られざる交流



▼恋娘昔八丈 番頭丈八



二人はいつ、どこで、どのようにして出会ったのか。ドナルド・キーンの知られざる京都留学時代を探る。

2019年
7/24(水) ▶ 12/25(水)

主催：公益財団法人ブルボン吉田記念財団
協力：中村芳二・るり子夫妻(高木四郎息女ご夫妻)
桐竹勘十郎(人形浄瑠璃文楽座 人形遣い)
フランソア喫茶室 株式会社 コテンゴテン
大阪大学附属図書館 株式会社ブルボン

収蔵庫から選んだ資料展

高木四郎 文楽人形スケッチ画展

～ドナルド・キーン京都留学時代の知られざる交流～



右：高木四郎（中村芳二氏提供）

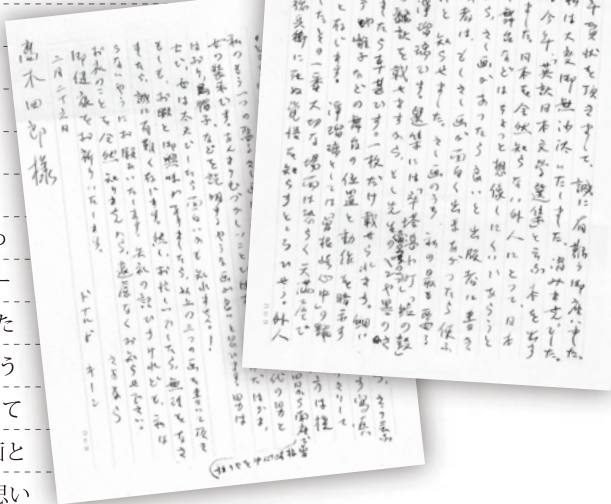


奥村夫人とキーン先生（無資主庵にて）

数年前、京都在住のある方から画家であった亡き父の遺品として額装された文楽人形のスケッチ画66点がセンターに贈られてきました。それは高木四郎という画家の作品で、中には、キーン先生との間で交わされた書簡が入っていました。その書簡の消印はどれも昭和30年のものでした。

昭和30年といえば、キーン先生が念願の日本留学で京都に住んで2年目。自伝によれば、『日本文学選集』の編纂で多忙な毎日であったことが分かります。その一方で、三島由紀夫と出会って親しく交流を重ね、人形浄瑠璃『曾根崎心中』の復活上演に心躍らせ、書と狂言を習い、精力的に日本文化を身に付けようとしていた日々でした。

そうしたキーン先生の日常の一端が、画家、高木四郎と交わした書簡に綴られていたのです。そのような日々の中で、キーン先生は、画家、高木四郎とどこで、どのようにして出会ったのでしょうか。66点の文楽人形スケッチ画は、二人のどのような交流の中から生み出されたのでしょうか。自伝からは見えてこない、知られざる交流を物語る66点の文楽人形スケッチ画と書簡を通して、誰よりも日本の文化を愛するキーン先生の思いを、あらためて見つめてみたいと思います。



■画家、高木四郎と交わした書簡

昭和30年の消印がある葉書や手紙からは、日本留学で京都に暮らすキーン先生の多忙な日常が読み取れます。その合間を縫って会いたいと望んだキーン先生が待ち合わせの場所として提案したのは.....。

■画家、高木四郎とは？

彼の名は、キーン先生の自伝には登場しません。高木四郎とはどのような画家だったのでしょうか。

■ドナルド・キーン先生と高木四郎、二人の出会いとは？

二人は、どこで、どのようにして出会ったのでしょうか。手がかりは、キーン先生の自叙伝の中にありました。

■葉書の「四條の喫茶店」とは？

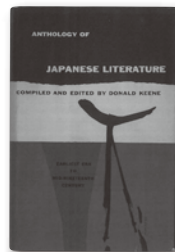
京都四条にある「フランソア喫茶室」のスタンドグラスのデザインを高木四郎は手がけています。その喫茶室は、思想や芸術を自由に語りあえる場となっており、多くの知識人、文化人たちが通っていたのです。



フランソア喫茶室

■書簡にうかがえる、キーン先生が熱中していた仕事

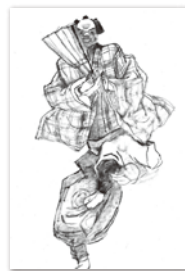
キーン先生は京都留学時代の2年間、『日本文学選集』の編纂に力を注いでいました。外国人に近松門左衛門の世界を理解してもらうには、的確な挿絵が必要と考えていたのです。



『日本文学選集』『古典編』『近代編』

■高木四郎 文楽人形スケッチ画66点

書簡を手掛かりに知られざる二人の交流が明らかとなり、寄贈された文楽人形スケッチ画66点に込められたキーン先生、高木四郎の思いを展示に見つめます。



うつぼざる
鞠猿



さんばそう
三番叟



7/24(水) ギャラリートーク

中村芳二・るり子夫妻(高木四郎息女ご夫妻)を迎えて

8月以降、月に一度、学芸担当によるギャラリートークを開催します。

開館時間：10時から17時（入館は16時30分まで）

休館日：毎週月曜日・火曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）

入館料：大人500円・中高生200円・小学生100円（入館料で企画展を観覧いただけます。）

公益財団法人ブルボン吉田記念財団

ドナルド・キーン・センター柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

新潟県柏崎市諏訪町 10-17 / TEL：0257-28-5755 www.donaldkeenecenter.jp/